

(別冊1) 平成30年度 熊本市エイズ総合対策報告書

平成30年度
各団体での取り組みについて

平成31年(2019年)4月

熊本市保健所 感染症対策課

各団体での取り組みについて

目次

平成 30 年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I 各団体における取り組みの実施状況について	1
II 各委員からのご意見	6

熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

H. 30. 8. 20 現在

	構成	氏名	所属
1	学識経験者	松下 修三	熊本大学エイズ学研究センター 教授
2		前田 ひとみ	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		久保 昌子 (新)	熊本大学大学院教育学研究科 教授
4	保健・医療関係	杉野 茂人	熊本市医師会 理事
5		田中 弥興	熊本市歯科医師会 副会長
6		丸目 新一	熊本市薬剤師会 会長
7		吉村 圭子	熊本県看護協会 理事
8		椎葉 浩亮	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部副部長
9	教育・青少年団体	半島 由紀雄 (新)	熊本県公立高等学校PTA連合会 会長
10		瀧崎 千恵	熊本県私立中学高等学校保護者会 副会長
11		田中 哲郎 (新)	熊本市PTA協議会 常任理事
12		高畠 啓通	熊本市青少年健全育成連絡協議会 副会長
13		今村 由紀	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護関係	丸住 朋枝	熊本県弁護士会 弁護士
15		吉村 譲二	熊本市民生委員児童委員協議会 理事
16	企業関係	川田 晃仁	熊本商工会議所 総務部 次長
17	労働団体	森岡 雅史 (新)	連合熊本地域協議会 事務局長
18	報道関係	伴 哲司 (新)	熊本日日新聞社 編集局文化生活部 次長
19	ボランティア	紫壇 美恵	熊本市食生活改善推進員協議会 副会長
20	ア団体関係	川口 弘蔵	Safety Blanket 代表

※任期 平成30年8月1日～平成32年(2020年)7月31日

I 各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学教育学部

本学科にてポスターを掲示し、学生へ授業時に声をかけるなどの取り組みを行っている。

【保健・医療関係】

■熊本市医師会

- (1) 医師会員に対して通年行われている「学術アーベント」や「リフレッシュコース」等の講演会において、医師会員への啓発を継続する。
- (2) 熊本地震後一時中断され再開された「熊本市民健康フェスティバル」や「健康教育講座」、本会のテレビ広報番組「TKU医療大百科」において、性感染症やエイズに関する情報提供を継続して行う。
- (3) 本会広報誌「森都医報」に本会議の報告記事を掲載し（2018年10月号）、エイズ・STD診療の重要性を喚起した。 ※P2参照

■熊本市歯科医師会

- (1) 会議報告を、理事会にて確認。 ※P3参照
- (2) 下記のリーフレットを本会会員へ配布し、来院した患者さんに注意喚起。
「こちら性感染症情報室」「正しく知って、予防しよう HIV・エイズ」
「知っていますか？梅毒という性感染症のこと」 ※感染症対策課より提供

平成30年度熊本市エイズ総合対策推進会議

担当理事 杉野茂人

熊本市エイズ総合対策推進会議（会長：松下修三熊本大学エイズ学センター教授、医療、PTA、教育関係者他各界より委員数20人）が平成30年8月7日（火）にウェルバルくまもとにて開催された。本会議はエイズの正しい知識の普及啓発、エイズに対する偏見や差別のないまちづくりに寄与することを目的とし平成8年より毎年開催されている。

会長による講演「エイズの現状と課題」では、HIV/AIDS 感染症治療の歴史と進歩について、そしてエイズ予防指針の3本柱（普及啓発および教育、検査・相談体制の充実、医療の提供・診療体制）について概説された。また全国の平成29年度の新規 HIV 感染者報告数は992件（昨年1,003件）とやや減少、新規 AIDS 患者報告数は415件（昨年437件）とやはりやや減少傾向との結果を報告された。また熊本県での報告数は平成29年度の新規 HIV 感染者報告数は10件（昨年14件）、新規 AIDS 患者報告数は2件（昨年5件）とやや減少傾向との結果であった。引き続き、潜在している感染者が保健所で安心して検査が受けられることが必要であると述べられた。

続いて熊本大学医学部附属病院 感染免疫診療部 講師 中田浩智先生から「熊本県における HIV 新規感染動向」についてご講演があり、全国的には減少か横ばいの傾向にある HIV 感染者やエイズ患者であるが、この数年九州、特に福岡で急増している。一方熊本では保健所などを通して比較的早期に、無症候期に発見される例が増えている。現在熊本大学病院に通院している患者は約190人である。エイズ症例を減らすためには患者啓蒙と医療機関での拾い上げが必要。また患者高齢化などを見据えて医療ネットワークなどの構築が必要と話された。

また熊本大学医学部附属病院 看護部 高木雅敏先生から「HIV 感染者の療養支援と地域における課題」として、受診患者数の高齢化が進んでおり全体の1/3以上が50歳以上であり、今後介護の現場への啓発も必要になってくる。在宅療養支援の問題として①病気を理由に受け入れを断られることがある。②家族に病名未告知の場合がある。男性独身一人暮らしが多い。③個人情報の漏洩や病気への偏見・差別を心配し、本人が支援を受けることに消極的になる。などの問題が出てきている。訪問看護・介護事業所や居宅介護支援事業所、グループホームなどへの出前研修も行っており利用して欲しい。医療、介護の現場では①感染への理解を持ってほしい ②差別・偏見を持たないでほしい ③個人情報を守ってほしいとお話であった。

次に熊本市感染症対策課から1) エイズおよび性感染症の発生動向 2) HIV 感染および性感染症の予防対策（計画）について報告があった。熊本市内の保健所で平成29年度に HIV 検査を受けた件数は1,269件（28年度856件）と増加したが、28年度は熊本地震で4月15日から8月31日まで検査を休止した影響が大きかったため、27年度1,399件と比較するとやや減少している。平成34年（2022年）の目標を1,780件とし、広く検査体制の周知を行い、市民にとって利便性の高い検査体制を構築し、検査数を増やしていきたいとの報告がなされた。

昨年も同会議の報告記事で述べたが HIV 感染イコール AIDS というわけではなく、HIV 感染の早期発見（検査）と早期治療開始で AIDS 発症を防ぐことができるだけでなく、感染（拡大）の予防につながる事が明らかになっている。今後、さらに啓発していくことが重要と考えられた。

平成 30 年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

平成 30 年 8 月 7 日（火）14 時より「ウエルパルクまもと」にて、平成 30 年度熊本市エイズ総合対策推進会議が開催された。

本年度は新年度ということで新委員への委嘱状交付が行われ、池田健康福祉局長の挨拶があり、新委員紹介、次に会長選出、第一線で活躍されている松下修三先生（熊本大学エイズ学研究センター教授）が再任挨拶をされ、講話に移った。

(1) 「エイズ・HIV 感染症・現状と課題」

熊本大学エイズ学研究センター 松下修三 教授

例年の如く、治療が予防になる時代、我が国における診断・治療の現状は、新規感染例を減少させるには十分でなく、HIV 感染例の早期発見・早期治療開始のため、検査機会の拡大を推進すべきである（自己検査、郵送検査、病院内検査の促進；PITC 検査＝医療者主導による HIV 検査およびカウンセリング、opt-out 検査など）。ハイリスク軍への、暴露前予防を柱とした感染予防キャンペーン、コミュニティーセンター事業の拡大などが必要である。

(2) 「熊本県における HIV 新規感染動向」

熊本医学部付属病院感染免疫診療部講師 中田浩智 先生

(3) HIV 感染者の療養支援と地域における課題

熊本大学附属病院看護部 日本エイズ学会 HIV 感染症看護師 高木雅敏 先生

HIV 感染例は九州で増加していると考えられるが、熊本では保健所などを通じて比較的早期に発見できている。また、エイズ症例を減らすためには患者啓蒙と医療機関での拾い上げ、患者高齢化などを見据えて医療ネットワークの構築が必要である。

以上、講話の概略です。その後、松下先生の議長のもと、議事が進行された。

1) エイズの現状と課題

昨年同様横ばい状態だが、平成 29 年報告数

全国（HIV 感染者：992 名、エイズ患者；415 名）累計；28,850 名

熊本県（HIV 感染者：2 名、エイズ患者；10 名）

熊本県の昭和 61 年からの総数は HIV 感染者：101 名、エイズ患者；64 名。

また、クラミジア、性器ヘルペス、尖形コンジローム、淋病は、H12 と比較すると約半数に減少して横ばい状態です。

梅毒は、全国的には増加傾向、本市においては 29 年度 63 例とのこと急増している。

2) 熊本市エイズ対策事業計画

- 1 正しい知識の普及啓発
- 2 相談検査体制の充実
- 3 医療体制及び生活支援体制

■熊本県看護協会

(1) 今年度、実施の性教育「出前講座」

熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中・高校向け「性教育出前授業」を実施し、その中で「エイズ・STD対策」についても講義をしている。

「今年度実施先」

小学校： 1校

中学校：23校 計 27校 (31回実施：同じ学校で学年別に2度実施)

高校： 3校

* 熊本市内の学校からの依頼は高校より1校

(2) 当協会総会（6月23日）開催時

熊本市感染症対策課よりエイズに関するパネル・ポスター等借り、それを会場に掲示し啓発活動を行った。

(3) 性教育研修会開催（10月27日開催）

保健師、助産師・養護教諭を対象に、学校教育における性教育の取り組み等の情報共有を行い、各地域・各職種で協力して次世代育成支援ができることを目的に「性教育研修会」を開催している。

(4) 熊本県性教育研究会定例会出席（2月8日開催）

創立30周年記念第19回九州ブロック性教育研究大会・兼第23回熊本県性教育研究大会に運営委員として参加した。

(5) 12月 世界エイズデーにはポスター等掲示し、啓発活動を実施した。

■熊本県栄養士会

(1) 会議後の役員会への報告。

(2) 平成30年4月14日熊本市地域事業部第1回研修会での資料配付。

以上の活動を行った。

【教育・青少年団体】

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

事務局において、エイズ・STD対策に関するポスターを窓口に掲示した。

◇特例H I V検査相談
 9日午後1～2時、熊本市中央区大江の熊本市保健所（ウェルパルクまもと内）で。採血後約1時間で、エイズウイルス（H I V）の感染の有無が分かる。希望者は同時に梅毒とクラミジアの抗体検査も可能（結果は後日）。予約不要で無料。匿名だが、待合室は共同。午後0時半から受け付け。市保健所感染症対策課 ☎096(364)3189。

「エイズウイルス（H I V）に感染しても治療すれば死ぬことはなく、他の人につうつこともない」。12月1日の世界エイズデーに合わせ、東京都内で記者会見した白阪琢磨エイズ予防財団理事長はそう強調した。

かつては「死の病」と呼ばれた時期もあったが、その後、治療法は大きく進歩した。抗H I V薬を1日1回1錠飲み続けることで血液中のウイルスは検出できないほど

治療法 大きく進歩

世界エイズデーで呼び掛け



世界エイズデーの啓発活動に取り組み、白阪琢磨（右）と白阪琢磨エイズ予防財団理事長（左）が、知らないでいることが、怖いという話を聞いた。2017年に国内で新たにH I V感染が分かったのは1389人で、横ばい状態が続く。H I V検査は全国ほとんどの保健所で無料、匿名で受けられる。熊本市では中央区ウェルパルクまもとで、月々金曜日の毎日、同市以外では県内各地の保健所で週1回（夜間は月1～2回）、検査を受け付け、いずれも予約が必要。

■Safety Blanket （詳細は、別冊2で紹介しています）

(1) 今年度活動

30年度は、連絡会や担当者間のミーティングを重ねながら、学習交流会の開催を軸に取り組みを行った。（連絡会1回、学習交流会4回、他SNS等を活用した担当者間の打合せ等）

(2) 来年度活動

引き続き、熊本市内外の保健所や熊本大学医学部附属病院と連携し、啓発活動や勉強会の実施を行っていく。

II 各委員からのご意見

ご意見なし